

氏名	岸川 秀 實
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 881 号
学位授与の日付	昭和52年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項)
学位論文題目	カテコールアミン代謝に関する基礎的ならびに臨床的研究 第1編 ガスクロマトグラフィー(ECD)法による組織、 血液、尿および髄液中のカテコールアミン類の測定法に ついての研究 第2編 てんかんのカテコールアミン代謝に関する基礎的ならびに 臨床的研究 第3編 末梢性脱炭酸酵素抑制剤とカテコールアミン代謝に関する 基礎的ならびに臨床的研究
論文審査委員	教授 森 昭胤 教授 水原 舜爾 教授 大月三郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

従来のカテコールアミンの測定法を電子捕獲検出器(ECD)を用いるガスクロマトグラフィー法によって改良し、血液、組織、尿および脳脊髄液全般にわたって測定できる方法を考案し、中枢神経系におけるカテコールアミンの役割に対して神経化学的アプローチを行った。

まず、てんかん患者62例および対照(非神経疾患患者)60例について血液および脳脊髄液中のカテコールアミン類の分析定量を行い、てんかん患者の脳脊髄液中のドーパミンの減少およびその代謝産物であるホモバニリン酸の減少を確認した。また、てんかん患者の脳脊髄液中には対照例には認められないチラミンおよびオクトパミンを検出し、てんかん患者にはカテコールアミンの代謝異常が存在することを示唆した。ついで、ネコのてんかんモデル(ペニシリン皮質焦点)について実験的に上述の臨床成績を確認した。他方、パーキンソン病のL-ドーパ療法にさいし、L-ドーパと末梢性脱炭酸酵素抑制剤との併用投与は、L-ドーパ単独投与よりもさらに有効であることを動物実験(ネコ)および臨床例についてカテコールアミン代謝の面から証明した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

ガスクロマトグラフィー(ECD)法により、体液および組織中のカテコールアミンを測定する方法を確立し、それを用いて、てんかん患者髄液中のドーパミンの減少など、重要な多くの知見を得たものとして、臨床生化学上価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。